

小児等在宅医療連携拠点事業 成果報告会

岡山県
社会福祉法人 旭川荘

重度心身障害児者の現状と課題

- 県内 959名 (H23)
うち 在宅 564名
- 家族の負担が過重傾向
- 在宅導入/生活に関する情報が不足又は散在
- 短期入所のニーズが高い
- 短期入所の環境は全国と比較し十分ではない
- 医療的ケアを行う施設の不足
- 岡山市への施設の集中

真庭保健医療圏:9

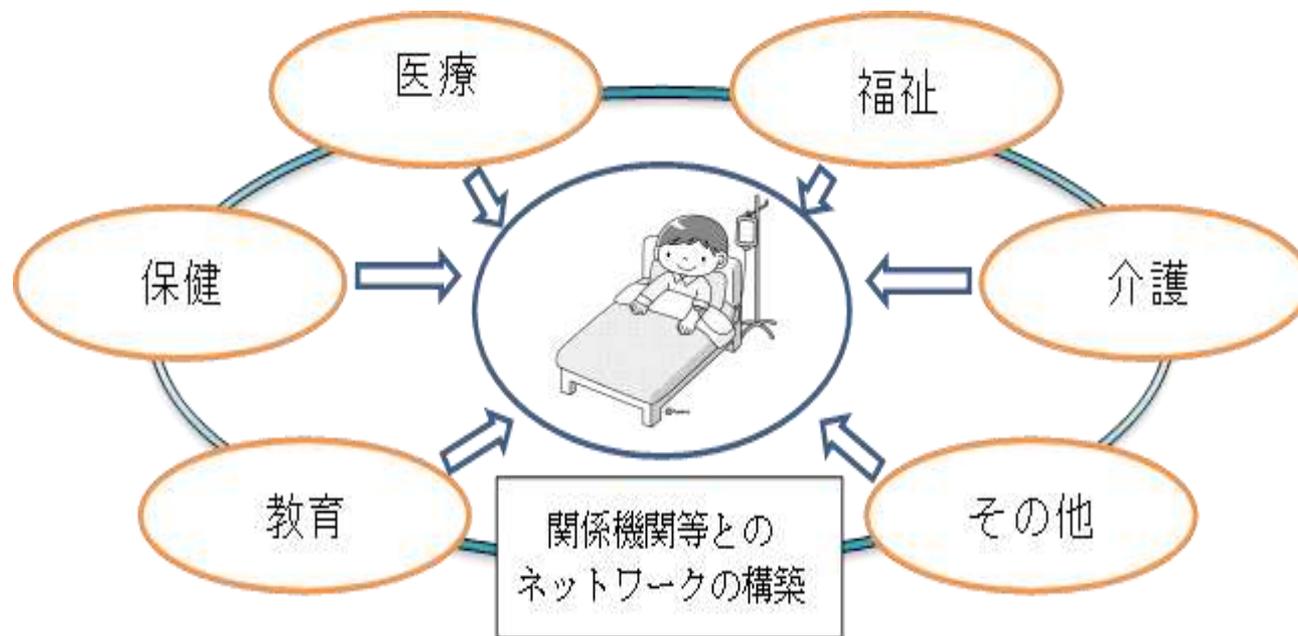
津山・英田保健医療圏:45

高梁・新見保健医療圏:15

県南西部保健医療圏:202

県南東部保健医療圏:293





在宅小児等及びその家族が
地域でいきいきと暮らせるような体制整備

課題抽出
対応方針策定

- ・退院促進協議会の設置
- ・NICU/長期入院障害児等の保護者等へのアンケート調査

医療・福祉
資源把握

- ・医療機関/福祉サービス事業所へのアンケート調査と結果の活用

資源の充実
専門機関との連携

- ・医療機関/訪問看護ステーションへの研修会
- ・地域での受け皿の拡充

福祉・行政
関係者との連携

- ・ヘルパーステーションへの研修会
- ・地域での受け皿の拡充

患者・家族の個別支援

- ・個別相談、家庭訪問
- ・小児等が入院している医療機関等と連携し相談体制整備

患者家族等の理解促進

- ・保護者等との情報交換会
- ・学校/福祉サービス事業所との連絡会

事業報告 1

- ①小児等在宅医療が抱える課題の抽出と対応方針の策定
地域移行支援会議 2回開催（H25.9月27日・12月12日）
長期入院児の実態調査の実施。

- ②地域の医療・福祉資源の把握と活用
訪問看護ステーション、ヘルパーステーションへのアンケート調査を実施。
短期入所事業所連絡会 2回開催（H25.5月29日・10月22日）

- ③在宅医療資源の拡充と専門機関との連携
訪問看護ステーションスタッフ研修 3回開催

事業報告 2

④福祉行政機関との連携促進

ヘルパーステーション研修 1回開催

⑤患者・家族の個別支援

障害児・重症児者専門のコーディネーターを配置(保健師4名
社会福祉士1名)し、電話・訪問等による個別相談を随時実施

⑥患者・家族・学校関係者等への理解促進・負担軽減

肢体不自由連絡協議会設置

生活介護事業所説明会の実施や支援学校との連携・情報交換

第2回地域移行支援会議 (平成25年12月12日)

参加者

岡山県(児童相談所1人・障害福祉課1人・医療推進課2人)

岡山市(こども総合相談所 2人・障害福祉課1人)

病院Dr・看護師・MSW 5人

旭川荘 PHN 2人

検討内容

①情報不足・資源不足

- 障害児の相談窓口がわからない。
- 県北の福祉サービスがわからない。
(病院・訪問看護・短期入所施設・日中活動等)
- 退院が決まっていない時期に相談窓口につなげてもいいか迷う。
- 地域の保健師につなげて1～2回の訪問で終わってしまう。
- 継続的なかかわりを持ってほしい。

解決策(案)

- 相談窓口、相談支援専門員の紹介。コーディネーターの配置。
- 福祉情報の冊子作成。

検討内容

②退院困難なケースへの対応

- 入院を長期化させない。
- 福祉サービスの情報提供
- 退院までのプログラムは個別性が高い。
- 病院から自宅ではなく、
病院から施設そして自宅という流れ。
- 自宅に帰ると生命の維持が難しいケースがある。
- 生まれつき障害があることで愛着形成がしにくい。
- 病院が抱え込まない。

解決策(案)

ネットワーク会議を積み重ねて対応する。

短期入所事業所連絡会

- 病院での短期入所について
事業所の設置、請求事務、受入れ手順
などの情報交換
- 在宅指導管理について
- 県内格差の是正について

岡山県 短期入所 事業所



★ 重症児施設
★ 一般病院

岡山県

今後

- H26年 秋頃にポストNICUの病棟の立ち上げ
- 病院・在宅からのスムーズな受け入れ計画の作成
(地域移行支援会議の継続)
- 岡山県新規事業:26年度予算案
 - ①レスパイトサービス施設拡大促進事業
(短期入所事業所連絡会の継続)
 - ②重症心身障害児者への理解促進事業
 - ③レスパイトサービス施設開設等支援事業
- 訪問看護ステーションのスタッフ研修の継続
- ヘルパー事業所の研修会の継続